

11. ドーベントンコウモリ *Myotis daubentoni* Kuhl,1817

環境省 VU



**分布**

北海道に分布する。ユーラシアに広く分布し、周辺国・地域ではロシア、中国、朝鮮半島で記録がある。



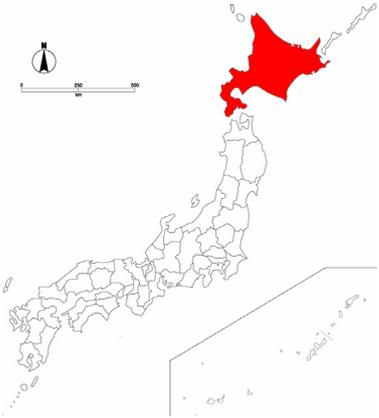
**形態**

前腕長 34～39 mm、頭胴長 44～56 mm、尾長 33～42 mm、体重 5～10 g。体毛色は灰黒褐色から灰褐色でモモジロコウモリと同様にバリエーションがある。腹面の体毛が背面より薄いモモジロコウモリほど白くはない。*Myotis* 属中では後足が大きい。

**生態**

昼間の休息は洞穴、家屋、樹洞を利用する。一年に一度、初夏に1仔を出産する。飛翔場所は水辺でもよく確認され、採餌の際の飛翔位置としてモモジロコウモリとともに水面近くで捕獲されることも多い。

参考文献 1)、2)、11)、49)

<p>12.ウスリホオヒゲコウモリ <i>Myotis gracilis</i> Ognev,1927</p>	<p>環境省 VU</p>
<p>写真無し</p>	<p>写真無し</p>
<p><u>分布</u> 北海道に分布する。</p>	
<p><u>形態</u> 前腕長 34～37 mm、頭胴長 38～50 mm、尾長 30～40 mm、体重 4.0～7.0 g。体毛色は黒褐色。背面の一部の体毛先端部分が、明瞭に黄褐色の金属光沢様に見える。外部形態がよく似るヒメホオヒゲコウモリとは、腿間膜の血管の走行の違いによる識別が可能という報告が近年発表された。</p>	
<p><u>生態</u> 昼間は樹洞を休息に利用するとされる。稀には家屋内で出産する例もある。一年に一度、初夏に1仔を出産する。</p>	
<p>参考文献 1)、2)、49)</p>	

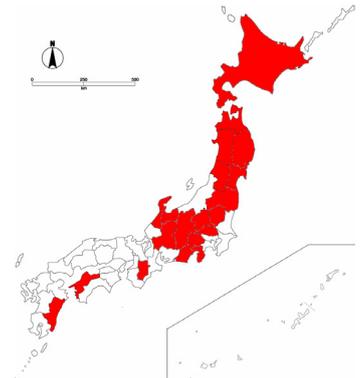
13.ヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* Ognev,1912

環境省 EN,VU\*1,DD\*2



分布

北海道、本州に分布する。



形態

前腕長 33~36 mm、頭胴長 42~51 mm、尾長 31~40 mm、体重 4.0~7.0 g。本州産に比して北海道産がやや小型という地理的変異があるとされる。体毛色は黒褐色で、背面上毛の先端が黄褐色の金属光沢をやや帯びるように見える。ウスリホオヒゲコウモリとは外部形態がよく似るが、腿間膜の血管の走行の違いによる識別が可能という報告が近年発表された。

生態

昼間は樹洞を休息に利用するとされる。季節的に家屋内で休息、出産する例が本州で報告されている。一年に一度、初夏に1仔出産する。電灯に集まる昆虫を捕食する姿が見られ、そのような場所では開けた道路での飛翔をおこなうが、自然林では林縁での飛翔が多い。

その他

\*1：亜種フジホオヒゲコウモリが *M.i.fujiensis* が VU 指定されている。

\*2：亜種オゼホオヒゲコウモリが *M.i.ozensis* が DD 指定されている。

参考文献 1)、2)、13)、18)、21)、23)、27)、28)、29)、31)、33)、49)、57)、70)、71)、72)

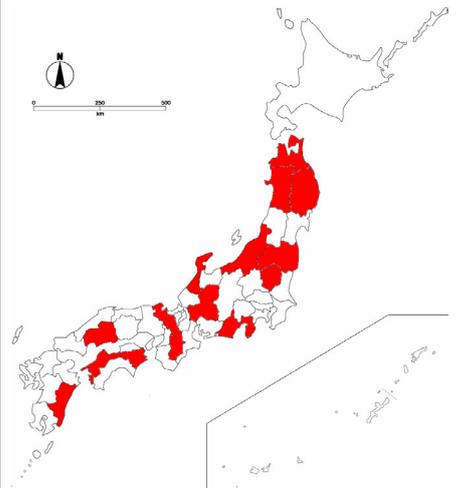
14.クロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinus* Yoshiyuki,1971

環境省 EN



**分布**

本州、四国、九州に分布する日本固有種である。低標高地に原生林が残存していれば、分布している可能性があると言われる。



**形態**

前腕長 30～34 mm、頭胴長 38～44 mm、尾長 33～40 mm、体重 4.0～7.0 g。体毛色は黒色系で、背面には銀色光沢の刺毛がある。耳介が細長い。

**生態**

昼間は大径木の樹洞を休息に利用するとされるが、小型のため非常に細い隙間にも入ることができる。東北や関東ではブナ、ミズナラなどの夏緑広葉樹林帯やその周辺部の比較的標高の低い樹林（標高 200～850m）で確認されている。白山、紀伊半島ではそれらより少し標高の高い（830～1100m）のブナ林の下部で確認されている。また宮崎県の標高 300mの照葉樹林で確認されていることから、本来は照葉樹林帯に分布していたのではないかとされている。

**参考文献** 1)、2)、7)、15)、16)、21)、31)、41)、42)、49)、55)、58)、73)、74)

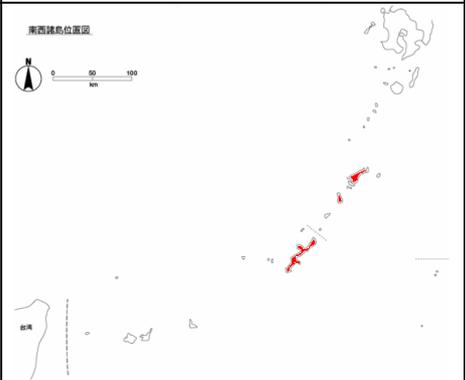
15. ヤンバルホオヒゲコウモリ *Myotis yanbarensis* Maeda&Matsumura,1998

環境省 CR



**分布**

南西諸島特産種であり、これまでに沖縄、徳之島、奄美大島で記録がある。



**形態**

前腕長 35～38 mm、頭胴長 41～44 mm、尾長 46 mm前後、体重 4.0～8.0 g。体毛色は黒色であるが、クロホオヒゲコウモリのような銀色の刺毛は見られない。耳介は細長い。

**生態**

昼間は樹洞を利用して休息しているとされるが、発見されてから新しく、確認例が少ないため生態についての詳細は不明である。

参考文献 1)、2)、7)、12)

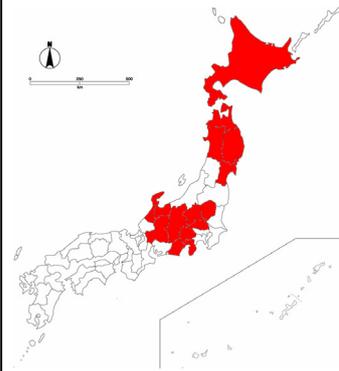
16.カグヤコウモリ *Myotis frater* Allen,1923

環境省 VU



**分布**

北海道、本州に分布するが、記録のあった地域が中部地方以北に偏在する。



**形態**

前腕長 36～41 mm、頭胴長 44～56 mm、尾長 38～47 mm、体重 5.5～11.0 g。体毛は黒褐色で背面に金属光沢を帯びる毛はない。ヒメホオヒゲコウモリに比して体格が明らかに大きく、測定値での比較でも下腿長が長い。

**生態**

昼間は樹洞を休息に利用する。家屋を利用して出産する例が稀に知られる。一年に一度、初夏に1仔を出産する。

**参考文献** 1)、2)、13)、15)、16)、18)、21)、23)、24)、27)、29)、31)、49)、58)

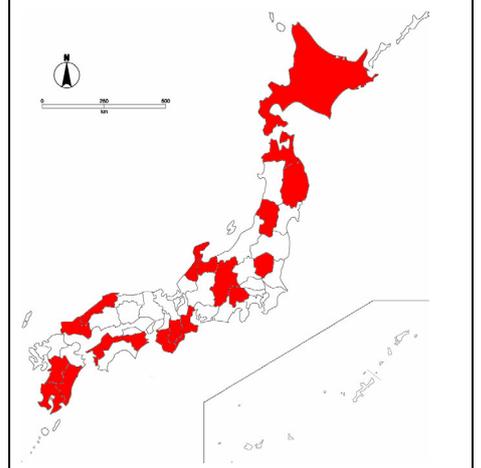
17. ノレンコウモリ *Myotis nattereri* Kuhl, 1817

環境省 EN



**分布**

北海道、本州、四国、九州に分布する。  
記録された地点数は少ない。



**形態**

前腕長 38～42 mm、頭胴長 47～58 mm、尾長 39～48 mm、体重 5.0～8.0 g。体毛は灰褐色で腹面がやや淡い。腿間膜の後縁部に細毛が並ぶ。耳介と耳珠が細長い。耳珠が特に細長く、長さは耳長の半分以上になる。

**生態**

昼間の休息には自然洞穴のほか、トンネルなどの人工洞穴を周年利用する。家屋の利用例もあり、樹洞も利用するとされている。近年において出産場所が知られているのは青森、長野、山口で、それぞれ家屋、人工洞、自然洞である。20～100 個体の雌からなる出産・哺育集団が作られ、一年に一度、初夏に1仔を出産する。出生後約1か月で飛翔するようになり、飛翔できるようになってもしばらく授乳期間がある。飛翔能力が発達すると共に徐々に哺育集団は解消され、同時に哺育期に見られなかった雄が現れる。または雄の生息洞に雌が姿を現すようになる。

**参考文献** 1)、2)、13)、15)、17)、21)、29)、33)、37)、39)、41)、42)、47)、48)、49)、74)

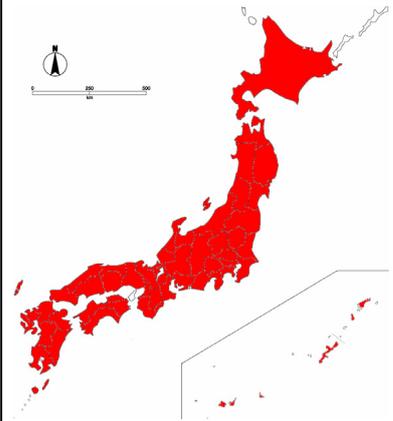
18. イエコウモリ *Pipistrellus abramus* Temminck, 1840

—



**分布**

北海道、本州、四国、九州、対馬、大隅諸島、奄美群島、沖縄諸島、宮古列島、八重山列島から知られる。



**形態**

前腕長 30～37 mm、頭胴長 41～60 mm、尾長 29～45 mm、体重 5.0～10.0 g。体毛色は灰褐色から淡褐色。ホオヒゲコウモリ属に比してやや丸い耳介、耳珠。雄の陰茎は長く目立つ。

**生態**

国内では年間を通じ家屋を休息場所として利用する唯一の種である。人家の屋根瓦の下や雨戸の戸袋奥部、通気口がしばしばねぐらとして利用される。数頭から数十頭の集団で人家に普通に住む。100頭以上の集団を形成することもある。一年に一度初夏に1～4仔を出産する。コウモリ類の中では寿命が短いと言われる。本州以南の市街地で見かけることが最も多い。

参考文献 1)、7)、8)、9)、50)

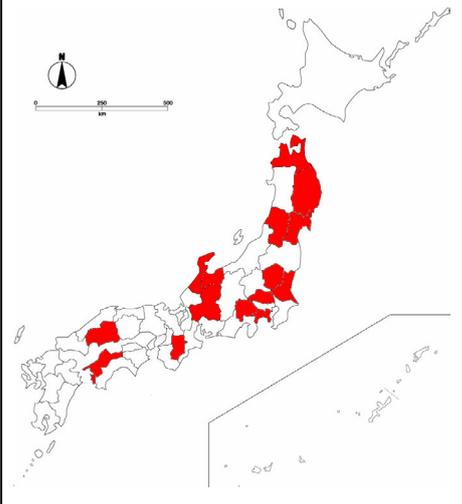
19.モリアブラコウモリ *Pipistrellus endoi* Imaizumi,1959

環境省 EN



**分布**

本州と四国に分布する日本固有種である。



**形態**

前腕長 32～34 mm、頭胴長 43～53 mm、尾長 34～40 mm、体重 5.0～9.0 g。体毛は赤褐色。腹側は黄褐色を帯びる。前述のイエコウモリによく似るがやや体毛の色が濃いと言われる。 前述のイエコウモリに比して上顎犬歯にある後方の突起が大きい。

**生態**

昼間は樹洞で休息するとされている。原生林に生息すると言われるが確認例も少なく、詳細な生態については明らかになっていない。

**参考文献** 1)、7)、15)、18)、21)、24)、25)、27)、29)、33)、38)、41)、49)、51)、58)、65)、74)

20.オオアブラコウモリ *Pipistrellus savii* Bonaparte,1827

環境省 DD

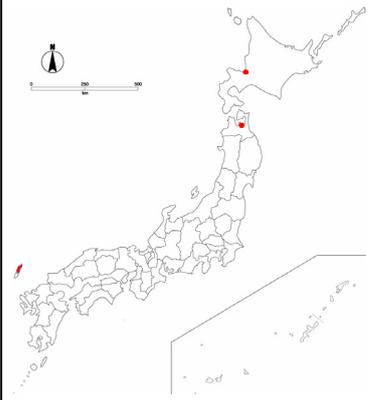
写真無し

写真無し

写真無し

分布

北海道、青森県、長崎県対馬で、計 6 頭が採集されているのが国内での全記録である。



形態

前腕長 34~38 mm、頭胴長 42~59 mm、尾長 30~43 mm。体毛色は黒褐色。*Pipistrellus* 属ではイエコウモリ、モリアブラコウモリに比してやや大型。

生態

確認記録自体が少なく、国内での生態については詳細不明。

参考文献 1)、7)、45)、49)